



▲TICAD9にて実施されたパネルディスカッション登壇者

## ▼ 目次【VOL.156】

- 2-3 【世界の今を知る】  
第9回アフリカ開発会議 参加報告
- 4 FUNN加盟団体活動レポート
- 5 FUNN加盟団体/FUNN活動レポート
- 6 イベント情報
- 7 NGO相談員報告・インターン報告

今年の8月20日から22日にかけて、横浜にてTICAD9が開催されました。今月号の「世界の今を知る」ではFUNNの正会員団体で、顧みられない熱帯病(NTDs)の制圧を目的として活動を行うNTDs Youthの会の轟木亮太さんに、TICAD9の様子とTICAD9にて実施されたイベントについて報告していただきました。

記事は次のページから **▶▶▶**

## 第9回アフリカ開発会議 (TICAD9) とは



国際協力ニュースをご覧の皆様、こんにちは。  
 一般社団法人NTDs Youthの会の轟木亮太と申します。  
 私たちは2023年に発足したユースNGOで、世界で約15億人が影響を受ける「顧みられない熱帯病(NTDs)<sup>1</sup>」の制圧を目指し活動しています。このたび、アフリカ開発会議 (TICAD9) に参加しましたので、その様子をルポとしてお伝えします。

TICAD (Tokyo International Conference on African Development、アフリカ開発会議) は、日本政府が主導し、国連、国連開発計画 (UNDP)、世界銀行、アフリカ連合委員会 (AUC) と共同で開催されてきた国際会議です。1993年の第1回から30年以上続く伝統ある会議であり、日本外交の中でも「アフリカ開発」をめぐる最重要の場の一つです。

2025年8月20日から22日にかけて、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜を中心にTICAD9が開催されました。アフリカ49か国から首脳級33名を含む代表団が参加し、国際機関、民間企業、学術関係者、市民社会など多様なステークホルダーが一堂に会しました。2025年8月20日から22日にかけて、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜を中心にTICAD9が開催されました。アフリカ49か国から首脳級33名を含む代表団が参加し、国際機関、民間企業、学術関係者、市民社会など多様なステークホルダーが一堂に会しました。

今回のテーマは「革新的課題解決策の共創」。経済成長や社会基盤整備、平和と安定に加え、民間セクター主導の発展や若者・女性の活躍推進、地域統合や連結性の強化といった分野横断的課題にも焦点が当てられました。会場は国際色豊かな雰囲気にも包まれ、全体会合に加えて日本貿易振興機構 (JETRO) による日アフリカビジネス交流会、200を超えるテーマ別イベント、さらに約

300の展示ブースが設置されました。横浜の会場全体が「アフリカと世界の未来をともに考える空間」として熱気を帯びていたのが印象的でした。

## 私たちが主催したテーマ別イベント

2025年8月20日、私たちNTDs Youthの会は、公式テーマ別イベント「グローバルヘルスの未来：次世代の力で変える健康課題」を主催しました。横浜の会場とオンラインで、34カ国168名からの参加者が集まりました。厚生労働省、世界保健機関(WHO)のアフリカ地域事務局、Gaviワクチンアライアンス、そして日本・ケニア・タンザニアの若者が集い、2030年までのユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC)<sup>2</sup> 達成に向けて意見を交わしました。

### 【開会挨拶】

厚生労働省の井筒将人管理官は「次世代の参画がこれまで以上に重要だ」と強調し、日本政府のNTDs対策や「UHCナレッジハブ」の取り組みを紹介しました。

### 【ショートトーク】

#### ■ ミカ・S・ンダイジガ氏

(WHOアフリカ地域事務局・ESPEN)



ンダイジガ氏はESPEN (顧みられない熱帯病排除のための特別拡大プロジェクト) がアフリカ47か国を対象にNTDsの制圧を加速させており、日本との協力も大きな成果を挙げ、たとえばニジェールがアフリカで初めてオンコセルカ症の制圧の認証を得た背景には、日本の支援があったと紹介。「若者は未来ではなく“今”である」と述べ、若者の持つ革新性やデジタル時代への対応力、社会に責任を求めるエネルギーを高く評価しました。

■ ノエル・アワ氏

(Global Alliance for NTDs Elimination, ケニア)



アワ氏は、NTDsとの闘いを「マラソン」に例え、「若者はランナーであると同時に、ペースメーカーであり応援団でもある」と表現しました。彼女は学校クラブや壁画活動、SNSを駆使したデジタルストーリーテリングによって地域社会に働きかけ、誤解を減らし、主体的な学びを広めています。さらに「若者のストーリーテリングはスティグマを打破し、行動変容を促す力がある。資金と支援があれば、2030年までにNTDs排除は現実になる」と力強く締めくくりました。

■ ヨナ・ンガザ氏

(One Health Society, タンザニア)



ンガザ氏は、アフリカの人口の60%を占める若者の参画なくしてNTDs制圧は不可能だと指摘しました。SNSを活用した啓発やWASH<sup>3</sup>活動など若者主導の事例を紹介する一方、資金不足や参加機会の欠如が課題と指摘。「若者が行動し、ステークホルダーが支援することで2030年の目標は達成できる」と力強く呼びかけました。

■ 梅木 真実氏

(NTDs Youthの会, 日本)



梅木氏は日本が狂犬病や住血吸虫症といったNTDsを克服した歴史や、海外資源に依存している現状を踏まえ、日本だからこそ果たせる貢献の重要性を強調しました。2030年は持続可能な開発目標 (SDGs) とWHOが掲げるNTDs制圧目標の達成年限であり、同時に日本がG7のホスト国を務める年であることを紹介しました。さらにアフリカのことわざ“If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.”を引用し、「エネルギーと情熱を持つ若者の力で、多様な仲間と共にNTDsの制圧に挑む」と誓いました。

【パネルディスカッション】

パネルディスカッションでは「国の主体性 (Country Ownership)」と「若者の関与 (Youth Engagement)」をテーマに活発な議論が展開。最後に行われた投票では「タッチ10Kチャレンジ」が次の行動として選ばれ、新たな国際的若者ネットワークの広がりを予感させました。

私はここで、「若者は未来の担い手である以上に、今この瞬間に世界を動かす存在である」と改めて学びました。会場で交わされた言葉や行動の一つひとつが、UHC達成とグローバルヘルスの未来を切り拓く力になると確信しています。

会議全体を通じての印象

TICAD9の全体会合も視聴しましたが、とりわけ印象的だったのは石破総理の基調演説です。総理はアフリカで研究を行った野口英世の言葉を引用し、「私は皆さんに何かを教えに来たのではありません。学びに来たのです」と述べました。アフリカから学び、共に課題を解決する姿勢が明確に示され、日本のアフリカ外交の基本姿勢を再確認する場となりました。私たちもまた、アフリカの若者と共に「今を生きる世代」として歩みを進めていきたいと強く思います。顧みられない熱帯病の制圧という大きな目標に向け、ユースだからこそ果たせる役割を果たし続けたいと考えています。

1 顧みられない熱帯病 (NTDs) : 人類の中で制圧しなければならない熱帯病として定義している21の疾患のことで、世界で15億人以上がNTDsによって健康な生活を脅かされています。NTDsの多くは途上国の中でも、特に貧しい遠隔地や都市スラム、紛争地帯などに集中しており、貧困の象徴となっています。

2 ユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) : すべての人が、必要なときに、必要な場所で、経済的な困難を伴わずに、適切な健康増進・予防・治療・リハビリテーションといった質の高い保健医療サービスを受けられる状態のことを指します。

3 WASH: Water (水), Sanitation (衛生設備), Hygiene (衛生促進) のことで、水やトイレなどの衛生にかかわる環境を改善する取り組みのことです。

認定NPO法人 地球市民の会  
 トンガと佐賀の高校生が共に描く未来  
 — 万博国際交流プログラム報告

この夏、地球市民の会では「万博国際交流プログラム」として、トンガ王国の高校生6名と政府・NGO関係者ら計11名を佐賀市に迎え、約2週間にわたる交流プログラムを実施しました。本事業は、2025年大阪・関西万博を契機に、気候変動や防災をテーマとした国際協力の新たな形を模索する佐賀市主催の取り組みです。

トンガ王国は南太平洋に位置する小さな島国で、豊かな文化を持つ一方、火山やサイクロンなど自然災害にたびたび見舞われる国でもあります。こうした背景を持つ若者たちと佐賀の高校生が出会い、互いの課題を学び合うことは非常に意義深いものでした。

一行は佐賀市の高校生とともに大阪万博を訪れたほか、佐賀市の防災や災害対策を学んだり、清掃センターの視察、中学・高校・保育園での交流、佐賀大学見学等、多様な学びと交流の機会をもちました。

一番のメインは、佐賀市トンガ双方の高校生18名で行った、「Co-Creating a Resilient Future: Youth Workshop on Climate and Disaster Risk」と題したワークショップです。そこでは、お互いの国が抱える災害の課題や気候変動の影響を共有し合い、自然と共生するためのアイデアをまとめて発表しました。発表の中には「Fight Nature with Nature」「The Impact of Climate Change Depends on You」といった力強いメッセージも生まれ、参加者の真剣な眼差しが印象的でした。

また、佐賀の家庭でのホームステイでは、文化や生活習慣の違いに触れ、温かい家族としての繋がりをもつ貴重な時間となりました。8月10日に開催した「トンガジャパンフェス in Saga」には150名を超える市民が集い、トンガの伝統舞踊や讃美歌、また日本の太鼓演奏や茶道体験などを楽しみました！はじめてトンガに触れる方がほとんどの中、伝統衣装や展示も楽しんでいただけました。

本プログラムを通じて若者たちは国境を越えて友情を育み、同時に気候変動や防災の課題に対する当事者意識を強めました。トンガの生徒からは「このようなワークショップの経験はとても貴重だった、トンガにも必要だと思う！」との声があり、佐賀の高校生からも「トンガのこと、災害や気候変動に対する知識どちらも深まった。みんな温かくて面白くて凄いい経験になった。いつかトンガに行ってみたい！」との感想が寄せられました。

今回の交流は一つの始まりにすぎません。次は日本の若者がトンガを訪れ、互いの学びをさらに深めていく予定です。地球規模の課題に立ち向かうためには、国際協力の担い手となる若い世代の出会いと経験が欠かせません。私たちは今後も、このつながりを大切に育て、未来に向けた協働を続けていきます。(報告：地球市民の会 藤瀬)



▲川副中学校での日本文化交流



▲ユースワークショップの様子



▲トンガジャパンフェスの様子



2025年9月12日より、古賀市ナツメ書店さんで、「つながる世界」展がスタートしました。これは今のパレスチナの状況に心をいためた21人の絵本作家さん達が、自分たちも声を上げること、表現すべきことがあるのでは、と声を掛け合っているものです。JVCパレスチナが撮りためてきたガザの人々・子ども達の写真も一緒に展示しています。

初日、作家の一人山福朱美さんが来られていて、お話ししました。「私達は子ども達に幸せになってほしくて絵本を作っています。ガザの状況を思うと今回は何を描いたらいいんだろうと、本当に大変な作業でした。」と話されていました。並んだ絵は、どれも胸にせまるものでした。

古い理髪店をリノベされたナツメ書店さんのギャラリーもとてもすてきなところで、全体が絵本の1ページのような感じでした。一角に置かせてもらっている布には、ガザのJVCスタッフ、人々へのメッセージを書いています。「つながっているよ」・・・そんなメッセージが心の支えになってくれるといいですね。

「つながる世界」展は9月27日まで古賀、このあと10月1日～15日は大宰府の絵本展「あっぷっぷ」で開催されます。ぜひお立ち寄りください。(報告：JVC九州ネットワーク 安村妙)



▲つながる世界展 展示の様子



▲JVC パレスチナの写真展



▲パレスチナへのメッセージ～国旗と同じ配色のスイカは連帯のシンボルです



## たぶプラ・福岡 アウトリーチでたぶプラミーティングを実施しています！

今年度のたぶプラミーティングは、私達がまだ出会っていない団体や個人に会いに行くことを目的として、アウトリーチでのたぶプラミーティングを実施しています。現時点で福岡市、糸島市、福智町の団体に訪問に行くことができ、それぞれの団体の活動についてお話を聞き、活動の現場にも参加することができました。どの団体も地域の特性を踏まえ、課題解決のための取り組みを実施されており、様々な方のお話を聞くことで今後のたぶプラ・福岡との連携の可能性も考えることができました。今年度は、今後もアウトリーチを続けると同時に、これまでと同様のたぶプラミーティングも実施していく予定です。詳細はFUNNHPにてご案内しますので、お楽しみに！(報告：FUNN事務局 多原 真美)



▲訪問先の様子



# FUNN周辺 “おすすめイベント” 情報



## 【NTDs Youthの会】

### 「第三回 顧みられない熱帯病コンテスト」

- ◆コンテスト部門：
  - A部門：わかりやすく伝える部門  
～NTDsって知っている？～
  - B部門：NTDsのために行動する人を増やす部門  
～NTDsを制圧するために～
- ◆応募対象者：中学校から大学院生の生徒・学生であること。
- ◆応募期間：9月1日(月)～11月30日(日)
- ◆賞（副賞）：
  - 最優秀賞：賞金10万円/チーム
  - U18特別賞：図書カード2万円/チーム
- ◆主催：世界NTDの日・日本実行委員会
- ◆後援：厚生労働省、外務省
- ◆詳細は公式ウェブサイトをご覧ください：  
<https://worldntdday.jp/contest2026>
- ◆お問い合わせ：2026年世界NTDの日・日本実行委員会事務局（一般社団法人NTDs Youthの会）  
TEL：080-2741-3952  
Mail：office@ntds-youth-japan.org



## 【NGO福岡ネットワーク】

### NGO・企業・行政など多様な主体が出会い、学び合う連携の場「Shared Visionワークショップ」の開催

外務省令和7年度NGO研究会採択団体である(一財)CSOネットワークと協力して、「Shared Visionワークショップ」を開催します。本ワークショップは、NGO/NPO・企業・自治体・金融機関・アカデミアなど、社会課題の解決に関心を持つ多様なセクターが集い、共に学び、連携の可能性を広げていくことを目的として開催します。

- ◆主な対象者：（各会場20名(1団体1～2名) / 先着順）  
NGO/NPOに限らず、企業・行政・金融機関・アカデミアなど社会課題に取り組む方

- ◆こんな方におすすめ
  - ・多様な主体と連携を進めているが「なかなか進展しない・広がらない」と感じている
  - ・「自団体に合う連携の形」を模索したい
  - ・「そもそもなぜ連携が必要か」を改めて考えたい
  - ・「連携をどこから始めればよいか」と迷っている

- ◆開催場所・日程  
参加しやすい会場にお申し込みください。  
福岡会場：10月14日(火) / 大阪会場：10月16日(木)  
名古屋会場：10月28日(火) / 東京会場：11月5日(水)
- ◆参加費：無料

【お申し込みは下記URLもしくはQRより】  
<https://forms.gle/1DjdPGia5KQZ7gCt7>



## 【バングラデシュと手をつなぐ会】

### 五ヶ山オカリナコンサート

- ◆開催日時：10月5日(日)14:30-16:00
- ◆開催場所：五ヶ山豆腐店 屋外ステージ  
(佐賀県神埼郡吉野ヶ里町松隈2418-1)
- ◆予約：不要
- ◆座席数：50席
- ◆雨天時：中止(延期なし)
- ◆お問い合わせ：にのさかクリニック092-872-1136  
バングラデシュと手をつなぐ会092-407-7701

### モスク体験ツアー

本番のコックが腕を振ったビュッフェスタイルのハラルランチでおもてなし

- ☆体験できること（通訳あり）
  - ・イスラム教徒の民族衣装着用
  - ・モスク礼拝
  - ・本場のハラルランチ(バイキング形式)
  - ・イスラム教徒(日本人及び海外の方々)との交流
- ※今年で当企画は最終回となります。

- ◆日時：11/2(日)11:00～14:30(受付 10:30～)
- ◆参加費：無料
- ◆定員：30名
- ◆詳細&申込み：右のQRコードを参照
- ◆申込期限：10月30日(木)
- ◆問合せ：山田 090-9570-1623  
事務局 092-407-7701 info@tewotunagakai.com



## 【アジア女性センター】

### 映像と講話から知る

### 戦禍で生きるガザの女性と子どもたち

未曾有の人道危機にある中東のパレスチナ・ガザ地区では、戦闘勢力に無関係な多くの市民がイスラエルの爆撃に怯え、さらには飢餓に晒されて明日を待っています。長年中東の取材にあたってきたジャーナリストで映画監督の土井敏邦さんを講師に迎え、ニュースでは捉えにくい女性と子どもたちが直面する苦難を、土井さんが手がけた記録映像とお話から学びます。

- ◆日時：11月22日(土) 午前10時～12時
- ◆場所：クローバープラザ セミナールームAB  
(福岡県春日市原町3-1-7)
- ◆講師：土井敏邦さん(ジャーナリスト・映画監督)
- ◆定員：70名(事前申込優先)
- ◆参加費：無料
- ◆申し込み方法：アジア女性センター  
右のQRコードもしくは下記連絡先まで  
TEL 092-513-7333/ E-mail awc-a@atlas.plala.or.jp





# NGO相談員活動レポート

海外ボランティア・国際協力に関する相談はコチラから→



## 「国際ボランティアワークキャンプ」の「未来職道」に出展しました

8月16日に阿蘇にて実施された「国際ボランティアワークキャンプ」の「未来職道」という時間にて、国際協力分野で活動する団体としてFUNNも参加させていただきました。未来職道は高校生が様々な活動家の話を聞く時間とされており、当団体以外にも九州で国際協力や交流に関わる様々な団体が出展されていました。当団体のブースに来てくれた高校生に対して、国際協力についての説明や当団体を始めとするNGOの活動についての紹介を行いました。参加した学生さんはNGOや国際協力に関する話を初めて聞く方がほとんどで、関心を持って話を聞いていただくことができました。（報告：FUNN事務局 多原 真美）



▲未来職道の様子



## 長崎市にてSDGs×国際協力講座&相談会を開催しました

8月5日、長崎市市民活動センター「ランタナ」にて、NGO入門講座&相談会を開催しました。当日は社会人から高校生まで8名の方にご参加いただきました。本講座では「世界とつながる学びと対話の時間」というテーマのもと、FUNNスタッフが講演を行いました。参加者の方々からは、「国際貢献をしたいが、海外に行くことが難しく何をすればいいかわからなかったが今回の講座を聞いて普段の生活を見直してできるところからはじめようと思えるようになりました」「NGOの活動に興味があり参加した。今度ぜひスタディーツアーに参加して実際の支援の現場を見てみたいです。」という感想をいただきました。（報告：FUNN事務局 松崎 浩平）



▲講座の様子

### インターン活動報告

今夏FUNNにインターンに来てくれた吉村さんに印象に残った活動について報告してもらいました！

こんにちは、福岡教育大学1年の吉村朋海です。8月から9月にかけてFUNNでインターンをさせていただき、その活動の一環で、小学校から高校まで、さまざまな国籍の子どもたちが集まる「日本語こどもひろば」に訪問させていただきました。

子どもたちの多くは簡単な日本語を話せる程度で、私たちも身振り手振りを交えながら一緒に遊んだり勉強したりしながら交流しました。活動を支えるスタッフの方々、自身の子育てをしながら、日本語が不慣れな親子を温かくサポートしており、その姿勢に深く感銘を受けました。地域で暮らす外国ルーツの子どもや保護者が安心して学び、つながれる場をつくる重要性を実感でき、多文化共生への理解がますます深まる貴重な経験となりました。今回の体験を通して、将来どのような立場になっても地域の誰かを支えられる人でありたいと強く感じました。



▲訪問時の吉村さんと子ども達

## たぶプラ・福岡ホームページ 作成しています！



FUNNとISAPHとの協働で実施している「多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム福岡（通称：たぶプラ・福岡）」事業において、今年度はたぶプラ・福岡独自のホームページを作成することとなりました！

ホームページではたぶプラ・福岡の活動だけではなく、多文化共生の活動をする個人や団体の役に立つような情報や、実際に活動を行う個人や団体の紹介も行う予定としております。

11月上旬を目標にリリース予定をしておりますので、FUNNからの案内をお待ち下さい！多文化共生の担い手にとって『使える』ウェブサイトを目指し作成を頑張ります！

### FUNN会員募集中！※金額は年会費です。詳細はQRコードページまで！

- ・正会員（団体） ¥10,000
- ・賛助会員（企業） ¥30,000
- ・賛助会員（個人） ¥6,000
- ・通信会員（個人） ¥3,000



寄付の振込先 ※会費振込もこちらの口座まで

#### 【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク  
 カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク  
 支店番号：208（赤坂門支店）  
 口座番号：普通 1641291

#### 【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク  
 口座番号：01790-7-89478  
 ※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。

NGOの活動を  
知りたい！

参加するには？  
何が出来る？

## NGO相談 受付中

ご相談おまちしております  
メール・電話にてお問合せください

**FUNN** 特定非営利活動法人  
 NGO福岡ネットワーク

### 編集後記

FUNNの報告内でも少しお話しているように、現在たぶプラ・福岡の活動で、様々な多文化共生に関わる団体さんへの訪問を行っています。受け入れてくださった団体さんはパワフルに活動している方が多く、私達も頑張らなきゃなあといった気持ちにさせられます。今後まずは私達自身がつながりを作って、色んな出会いを増やせたらいいなあと思っています。（編集：多原）

### FUNN正会員団体リスト

- \* (認定)NPO法人ISAPH
- \* アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- \* (特活) アジア女性センター
- \* AfricAsia
- \* (一社) NTDs Youthの会
- \* (特活) 九州海外協力協会
- \* 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- \* JVC九州ネットワーク
- \* (特活) じゃっど
- \* 認定NPO法人地球市民の会
- \* チベットを知る会
- \* NPO法人トゥマンハティふくおか
- \* 認定NPO法人難民を助ける会
- \* ネパール歯科保健医療協会(ADCN)
- \* (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- \* PP21ふくおか自由学校
- \* 福岡YMCA
- \* フレンズ国際ワークキャンプ九州
- \* (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- \* (一社)モザンビークのいのちをつなぐ会

【編集・発行】

**FUNN** 特定非営利活動法人  
 NGO福岡ネットワーク

〒812-0011  
 福岡市博多区博多駅前3-6-1  
 小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ  
 最新情報はコチラから



\* 受付時間：火～土 13:00～18:00

\* 日・月・祝・・・休み



092-405-9870



funn@ngofukuoka.net



https://ngofukuoka.net/